



©朝日新聞社 2005年
発行所 名古屋市中区栄1丁目
3番3号 〒460-8488
朝日新聞名古屋本社
電話 052-231-8131

愛・地球広場

笑顔咲く

ビール手に観劇／映像ふんだん

里山の緑が深まって、さわやかな風に揺れる。愛・地球広場で、人工芝の緑の上を歩道を広げる遠足の小中学生も家族連れの輪が開く。「やっぱり車座になって食べるのがいいね」。食べた後、その場から立ち去る人々の足音が響き渡る。そんな光景が、北ガートを入って間もなく広がる愛・地球広場。人工芝部分約6千平方メートル。十がゆったり座れる。すべしはワールドレストロンがある。ビールやジュマを置いてきて談笑する人も多い。

「ビールを飲みながらバク広がる愛・地球広場。人工芝が見れるなんて」。高瀬のステージで草刈民代さんが舞臺を見ながら一杯大型連休明けには、とてもいいな楽しみ方もできた。

難波が、横20層のエキスポジションの定番は、世界

の笑顔や全編で撮影した笑顔が紹介される「メリエクスボ」。このほか、世界の子どもたちが自然と共に成長する姿を描いた「地球に吹く風」、移りゆく日本の自然を見せる「二十四節気」などが上映される。夕方はステージで、子どもたちに人気の「精霊たちの森林舞踏会」が上演される。トワイライトコンサートが予定されている日もあり、夕涼みには最適だ。



屋時の愛・地球広場で、はビールを楽しむ人たちは伊藤恵里奈撮影

愛・地球広場のエキスポジションでは、世界中の人や会場を訪れた人の「笑顔」を上映している。撮影者のアートディレクター水谷孝次さん(64)に話を聞いた。

アートディレクター・水谷孝次さん



ベトナム戦争が終わって30年を迎えた日、ベトナム館の前で撮りました。終戦は1975年。日本が戦後30年の年でした。ベトナムを訪ねて笑顔撮影したのは今年1月。ホーチミン大学教育学部の学生、チャン・フン・タオさん＝写真左上隅＝の協力でいい写真が撮れました。彼女は「楽しいプロジェクトなので手伝わせてほしい」と撮影中に申し出てく

れました。ハノイ出身で日本語はできませんが、ボランティア志望でした。テストを犠牲にしてメコンデルタ地帯などの撮影の旅に同行してくれました。彼女が選ぶ子どもの笑顔はみんな自然なんです。ほくらはベトナムでの仕事を今も「タオちゃんプロジェクト」と呼んでいます。メガネをかけたタオちゃん自身の笑顔も素晴らしい。戦後30年のベトナムのいい思い出です。(談)

撮影の旅仲間が支え

愛・地球広場は万博協会が運営し、メディア朝日(朝日新聞社、テレビ朝日、朝日放送、名古屋テレビ放送)、松下電器産業、NTTドコモ・ドコモ東海が協賛しています。



自分だけの記念新聞いかが

愛・地球広場では、朝日新聞「マイペーパー」も発行されている。世界に一部だけの個人向け記念新聞だ。当日の内外のニュースを掲載し、携帯電話で撮影した自分や家族、友人の笑顔の写真を前、30字以内のメッセージを取り込んで印刷する。写真とメッセージはエキスポジションでも上映される。

作り方は次の通り。

- ①愛地球広場にあるドコモのインフォメーションセンターかマイペーパーブースへ。
- ②専用のサイトにカメラ付き携帯電話で接続する。
- ③指示に従って写真などを送信。
- ④通知された受け取り番号をマイペーパーブースに伝え、記念新聞を受け取る。

来場者へ愛知万博会場へ